

公明党議員団

池田 謙次・神山哲太郎・大西 厚子
藤田 広美・大野 正和



池田謙次 議員

今回の議会質問は、当然の如くコロナ関連の内容でした。

台風シーズンを迎え、さらには、頻繁に発生している地震など、現在のコロナと自然災害が重なった時の対応を重点的に質問しました。

避難所の備蓄品はじめ避難時の3密対策は喫緊の課題です。さらに、令和元年度から質疑していたオンライン診療の実施を訴え、3月から、まず音声による実施。さらには、画像によるオンライン診療の実施を強く要望しました。

最後に、休校が続き分散登校が始まりましたと同時に、短期間で、6件の声かけ事案が発生。幸いにも、大きな事件とならず未遂となったが、通学路に防犯カメラの設置を要望し、「早期に検討」との答弁がありました。



藤田広美 議員

苦小牧駒澤大学では令和3年度より校名を北洋大学と変更し、キ

ヤリア創造学科に英米語、中国語、日本語の3コースが新設になります。各コースを履修することで取得可能な資格や就職へとつながるキャリア教育、そして学生確保の取り組みについて総務委員会で質疑しました。英米語や中国語コースで国際的にも権威のある語学検定試験取得への支援、日本語コースで日本語教師を目指す日本人学生の履修を想定し、グローバルな人材育成を目指し、高校への説明会を予定しており、多くの学生が入学できるように支援していくとの答弁がありました。他にも地域情報化計画、人材育成基本方針、まちなか再生総合プロジェクトなどで質疑しました。

霊葬場の新型コロナウイルス感染症対応について 感染リスクを極力避けるためにコロナウイルス感染症で亡くなった方の受け入れ体制について質問し、独自のガイドラインを制定し対応していくとの答弁がありました。その他、学



神山哲太郎 議員

校休校と再開後の対応、職員の接遇について質問しました。新型コロナウイルス感染症対策医療支援等事業について いま不足している医療資材の把握や終息が見えない中での追加支援などについて質疑。医師会と協議しマスク、消毒薬以外の不足資材についても支給を想定し、今後も対応していくとの答弁がありました。



大西厚子 議員

新型コロナウイルス感染症対策の市内大学等学生支援金についての質疑で、支援の対象は苦小牧駒澤大学の留学生を含む学生128人と苦小牧工業高等専門学校の外国人留学生7人であると答弁がありました。今回の支援の対象外となる学生や高専生、同世代の市内高校生への対象拡大を求めました。

災害備蓄品について、ハンドソープや哺乳瓶の消毒剤の追加を提案し、国の第2次補正予算などで対応を検討すると答弁がありました。ほか液体ミルクの備蓄、分散型備蓄倉庫の拡大を求めました。

避難所運営マニュアルに追記されたペット同行避難の推奨について質疑し、避難所での体制整備と市民周知の充実を求めました。



大野正和 議員

補正予算にて、中小事業者持続化支援事業について質疑しました。その他の支援事業で事業所情報などを使用することに同意された方に直接の案内通知を提案し、準備を検討するとの答弁がありました。

一般質問では、GIGAスクール構想について一人一台の端末を整備する上での使用目的・方法などを明確にした上でさまざまな提案をし、見解を求めました。学校や地域などからも意見をもらい、さまざま活用方法を検討するとの答弁がありました。

臨時特別給付金などがある中で、特殊詐欺などの懸念があるため対応についても質問し、交通安全指導員が家庭訪問した際に声掛けとチラシ配布など新たな取り組みを行うことになりました。避難所の運営などについても質問しました。